

令和元年度 第3回大阪府河川構造物等審議会 議事概要

日時：令和2年2月28日（金）15:00～17:00  
場所：大阪府西大阪治水事務所  
出席者：委員）杉村委員・高橋委員・中北委員・森委員 計4名

まとめ

- (1) 第2回審議会を踏まえた論点整理について
    - ・第2回審議会にて委員及びオブザーバーよりいただいた意見を整理し、論点を整理した。
  - (2) 現行高潮計画外力による高潮・波浪計算について
    - ・平成30年台風第21号を対象に、三大水門付近の水位観測値との再現性が高いパラメータを検討した結果、大領域、小領域ともにC1、C2を0.65とした。
  - (3) 気候変動を踏まえた設計外力の設定の考え方について
  - (4) できるだけ手戻りのない設計の考え方について
    - ・一定のシナリオに沿って設計水位と概算費用を示し、意見をいただいた。
- ⇒次回以降、いただいた意見を踏まえて検討を進め、継続して審議を行う。

主な確認事項、委員意見等

- (1) 現行高潮計画外力による高潮・波浪計算について
  - ・時系列の再現結果を見ると、湾口に近い神戸、大阪、淡輪できれいに再現できている一方で、水門付近では観測値に比べ、ピークが下がる速度が遅い。
  - ・今回の検討では波形の立ち上がりの再現性を重視したが、気圧と風を与えているモデルの限界とも考えられる。10年後ぐらいに何かを見直すときは、その点にも考慮するのがよい。
  - ・C1、C2は大領域、小領域ともに0.65とする。
- (2) 気候変動を踏まえた設計外力の設定の考え方・できるだけ手戻りのない設計の考え方について
  - ・朔望満潮位の上昇率は国の検討会で試算をしたが、数字をそのまま読むのではなく、年間数ミリというぐらいのこととして見て欲しい。
  - ・うちあげ高さの計算結果について、平成30年台風第21号来襲時の神戸港のデータと合っているか確認するのがよい。
  - ・手戻りのない設計の考え方について、2度上昇の場合は土木部分を先行型とするのがよい。
  - ・仮に4度上昇となった場合に、水位が水門を越えても扉体や構造は壊れないようにチェックするのがよい。
  - ・4度上昇となった場合の外力は、平均水位を上げると静水圧が2倍近くになるが、2度上昇で台風だけが強いケースもあるため何パターンかでチェックするのがよい。
  - ・とにかく潰れないということも大事。